**松林**

庭園が造営された当初からある松林は3箇所ありますが、庭園の北側にある休憩所「五十三次腰掛茶屋」から小道を挟んで向かい側にある松林は、そのうちのひとつです。後楽園全体で約240本のアカマツ（学名：Pinus densiflora）とクロマツ（学名：Pinus thunbergii）があり、そのうち約100本がこの松林のものです。

第二次世界大戦の後、キクイムシの大量発生により庭園にある松の木のほとんどが枯れてしまいました。この松林は1950年代に再び植えられたものですが、それ以降松林の木は丈夫で元気に育っています。この辺りの風景は遮るものなく眺めることができますが、その風景の中に隣接する休憩所「五十三次腰掛茶屋」があります。松は常緑樹であり寿命が長いことから、長寿のシンボルとして長らく大切にされてきました。